



「長野県 次世代サポート課事業を紹介します」

絆求めてNo.50 で、特別な配慮を必要とする子ども達への支援について本田秀夫先生（信州大学教授）の講演を基にお伝えしました。今回は長野県の次世代サポート課の事業について紹介します。

1 発達障がい者サポーター養成講座について

(1) 発達障がい者サポーターとは

…発達障がいのある方の身近な理解者です。発達障がいの方が困っている時、パニックになっている時、その方を理解し、サポーター役となる人です。

(2) 発達障がい者サポーターになるためにはどうすれば良いか

…「発達障がい者サポーター養成講座」を受けます。講座内容は、「発達障がいについての基本的な知識と対応」についてです。講座時間は、90分又は45分になります。講座は5名以上の受講者がいれば実施できます。

(3) 問い合わせ先

…☎ 0263-37-2725

2 発達障がいサポート・マネージャー派遣について

(1) 発達障がいサポート・マネージャー（サポマネ）とは

…全年代、全分野における発達障がい者支援の知識及び経験を有し、各圏域の実情に応じ、発達障がい者に直接関わっている支援者に対して総合的な助言及び必要な支援への橋渡し等をする人です。サポマネは、各圏域の「障がい者総合支援センター」に配置しています。（[「発達障がいサポート・マネージャーのご案内／長野県」](#)を参照ください）

(2) 発達障がいサポート・マネージャー（サポマネ）の業務は

…大きく2つあります。①発達障がい児者の支援者への支援 ②ネットワーク・地域づくりの支援

①支援者支援の主な内容について

- 1) 支援への橋渡し支援（コーディネート）…支援を必要とする人に必要な支援を届けられるようにするための情報提供を行います
- 2) 困難ケースへの対応アドバイス（コンサルテーション）…支援が行き詰っているケースなどの相談に応じ、環境調整など解決策を共に検討し、支援者のサポーターとして伴奏します
- 3) 地域の支援力向上を応援（研修会等の講師）…支援機関の職員研修や、発達障がいの理解啓発などを目的とした地域の勉強会を行います

②ネットワーク・地域づくり支援について

- 1) 全体像を把握し情報を提供する…関係機関や関係者と連携することで、地域の全体像を俯瞰します。そして必要に応じて支援者の皆さんに情報提供します
- 2) ネットワークづくり…地域の中でのネットワークづくりをします
- 3) 連携体制づくり…「地域の切れ目のない支援体制」を連携機関の皆さんと一緒につくります

3 動画ライブラリーについて

2で紹介した、発達障がいサポート・マネージャーは、長野県発達障がい情報・支援センター（松本旭町庁舎内にあります）のスタッフを兼任しています。このセンターのWebサイト内には、発達障がいに関わる動画ライブラリーがあります。発達障がいについて学ぶ上で非常に参考になるコンテンツです。

長野県発達障がい情報・支援センター

動画ライブラリー



教えて！本田先生！！
信州大学医学部
子どものこころの発達医学教室
特任教授 本田秀夫





**あらためてきちんと知りたい
発達障害①～⑤**
信州大学 精神医学教室
准教授 藤山大明





**いちばんかんたんな
絵カードの作り方**
信州大学医学部
子どものこころの発達医学教室
特任助教 新美紗美





とーろーろー対談
本田秀夫センター長
高橋知音副センター長
宮内かつら副センター長
3人の初の対談動画です。





**学習障害と読み書きの困難
の理解シリーズ**
信州大学学術研究院教育学系
・教育学部教育科学
教授 高橋知音



長野県発達障がい情報・支援センターWebサイト内「動画ライブラリー」に今後も様々な動画が追加されます。

*画像のQRコードは画質が悪いため、このQRコードからは読み込みはできません。以下のURLにアクセスしてください。

<https://naganoken-hattatsu.info/>

ページが開いたら、「メニュー」の動画ライブラリーを選択してください。

*下のQRコードを読み込んでもアクセスできます。



皆さんは「発達障害と間違われる子どもたち」という著書をご存じでしょうか。小児科医であり医学博士である成田奈緒子先生の著書で、青春出版社から出ています。この著書に次のような記述があります。「増えているのは発達障害ではなく、発達障害もどきだった?!」私が「発達障害もどき」と名づけるような症候を持つ子は、広い意味で環境が整っていないケースが多いです。その結果、小学校入学前にしっかりと育っているはずの脳の大事な部分が育っていないことがあり、学校で問題を起こしてしまいます。(以上 p48 より引用)

…発達障がい又はその疑いがある子ども達が年々増加する傾向があるという話を耳にします。しかしその考えは本当に正しいのでしょうか？他の子どもとは違う反応をするから、他の子どもより手がかかるからなど、大人にとって都合の悪いものをひとくくりに発達障がいのせいにしてしまうきらいがあるように思われます。しかし、環境を考えてみることでその違いをうすめることができるのではないかと思うのです。ある園では、子どもの視覚刺激を下げるため、要らないものはクローゼットに収納できるようになっていました。その子に合った環境整備は簡単にできる環境整備の一つですね。(専門員)